

スペースシャトル&オービター

童友社 1/288スケールプラスチックキット
製作・文:政府開発援助

1. スペースシャトルについて

アメリカ航空宇宙局(NASA)のスペースシャトル計画は、宇宙船を繰り返し使用する(外部燃料タンクのみは使い捨てで打ち上げ後に燃え尽きる)ことで比較的低コストでの宇宙輸送を実現したシステムである。オービター(軌道船)は6機が建造され、滑空試験機のエンタープライズ号を除く5機が合計135回の飛行を行っている。コロンビア号による1981年の宇宙初飛行以来、人工衛星の回収やハッブル宇宙望遠鏡の打ち上げなど様々な任務に従事したが、途中2機のオービターを爆発事故で失ったことや機体点検の為にコストが膨大なものとなったことから計画打ち切りとなり、2011年に退役した。

2. キットについて

キットはかつてユニオンモデルから発売されていたもののようです。たまたまブースター付の「007」版を買ってあったので今回はこれを使用しました(現在は通常仕様のもも生産されています)。このシリーズはオービターのランナーに滑空試験用のノズルカバーが付属しているのが大きな特徴で、最近ハセガワからB-747とのセットが発売されるまでは唯一滑空状態が再現できる国産キットでした。ただし、オービターのキャノピー部品は存在せず素抜けとなっているのは残念なところです。

3. 製作と塗装について

オービターキャノピー周辺の面取りが気になったので、大事にならない範囲で修正。キャノピーはエポキシパテを充填したものをおゆまるで型取りし、瞬間接着剤を使って透明なものを複製しました。オービター部分は2色成型となっており、機首の色違いの部分の段差の修正に結構手間取りました。ノズル周りは貧弱に感じられたのでキットのパーツは使わず新造。メインノズルはコトブキヤのバーニアに交換し、ノズル基部はモールドパーツを組み合わせて作ったものを複製して揃えました。ブースターとは分離可能です。

左右の固体ロケットブースターは作業のし易さを考え、一旦分割した後に接続部にピアノ線やポリパーツを埋め込んで着脱式に。オービターと液体ロケットブースターの接合は、前はジャンボとの接続部品を切り詰めて流用し、後ろは不要な部分を削り取った後に真鍮管等で作り直しました。飾り台はオービター単独でも飾れるよう、支柱を延長しネジを埋め込みました。なお、オービター底面裏側には磁石を固定しており、磁力により液体ロケットブースターや飾り台との位置合わせを行えるようになっています。

塗装はタミヤの1/100キットの塗装図を参考に、コロンビア号の初飛行状態をイメージして仕上げました。まず全体にタミヤの缶サーフェーサーの上からラッカー系の白を吹き、実機で黒い部分はスケールを考えてエナメル系のフィールドグレーに黒を加えたものを筆塗り。機体細部はエナメル系のニュートラルグレーとメタリックグレーで塗り分けました。ノズルはラッカー系の黒鉄色です。デカールはレベルの1/144キットのものをスキャンして縮小しました。スミ入れにはタミヤから発売されたばかりのスミ入れ塗料を使用し、最後に半光沢のクリアを吹いています。



全体



オービター

4. 製作過程



キャノピーラインを修正し、エポキシパテを充填して凸型を作成。



凸型から凹型を作り、瞬間接着剤を充填してキャノピー部品を新造。



エンジンノズル周りを新造し、メインノズルを大型のものに交換した。



ブースターは一体整形の部分分割して形状を整えている。